

北大血液内科に入局した 研修医の先生からのコメント



血液内科へ入局した研修医の先生から、何を考え、何を感じて血液内科へ入局したのか、コメントを頂きました。

学生・初期研修医の皆様が、自身の将来進むべき道を決める際の参考にさせていただきますと幸いです。

少しでも興味ある方はいつでも連絡してください！

内容

* コメントをいただいた先生

2016年卒：宮下 直樹 先生

2017年卒：伊東 しほり 先生

2017年卒：吉田 匠汰 先生

2018年卒：森木 朝子 先生

* 医局長から学生・研修医の先生への一言

2020. 6. 15 作成

森木 朝子 先生

札幌医科大学医学部 2018年卒業（内科専攻医1年目）
2020年現在：北海道大学病院 勤務



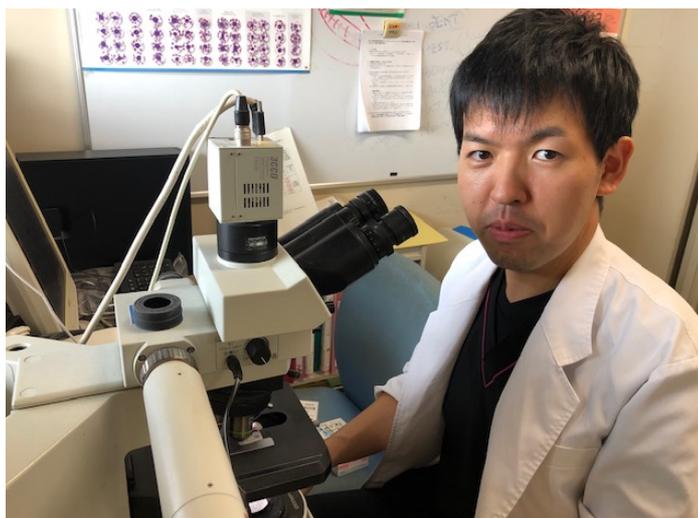
初期研修1年目の11月末に北大血液内科を見学させていただく機会を頂き、初日に参加した症例検討会の熱量に圧倒されました。次の日に医局長の後藤先生からプチ教室説明会をしていただきました。臨床だけでなく基礎研究にも力を注いでいること、女性医師が働き続けられるように教室全体で配慮してくださっていること、医局員が豊嶋教授を慕って団結していることがストンと胸の中に入ってきて、「ここでなら一生飽きずに仕事続けられそうだなあ」と思いその場で入局宣言するに至りました。

初期研修1年目の3月に第一子の妊娠が発覚し、今後のことに関して不安な気持ちでいっぱいだった時、豊嶋先生に「丈夫な子を産みなさい」と激励していただき、安心してなんとか初期研修を修了できました。3年目の4月から北大病院にて、多々融通いただきながら働くことができます。造血幹細胞移植や治験など大学病院ならではの診療に圧倒されながら血液内科医としてスタートできて幸せだなあと思っています。私の子育てしながら働く姿が後輩たちの希望になればいいなあというのも今を頑張るモチベーションになっています。一緒に働ける日を楽しみにしています！



宮下 直樹 先生

北海道大学医学部 2016年卒業（内科専攻医3年目）
2020年現在：北海道大学病院 勤務



2016年卒、現在大学院1年目・専攻医3年目の宮下直樹と申します。私なぜ血液内科の道に進んだか簡単にお話しさせていただければと思います。今思えば、血液内科の臨床実習でG-bandの検査結果を見ていた時、なぜか非常に興味をそそられたことを覚えています

それがきっかけで血液内科に興味をもつようになり、初期研修でも血液内科を選択しそのまま北大血液内科に入局をしました。血液内科の魅力は他の先生方もたくさんお話ししているとは思いますが、個人的にはやはり診断から治療までを一括して行えることや、造血幹細胞移植に代表されるように悪性疾患の「治癒」を目指せるところかと思えます。新規の治療標的の発見や薬剤の開発など進歩が速い点も魅力的であると思えます。もちろんアグレッシブな治療だけではなく、緩徐な進行の疾患であればうまくつきあっていく方法を考えることや良性疾患の対応など、様々な点から患者さんに関わることが出来ます。先ほども言ったように進歩が速い世界なので日々勉強し、患者さんによりよい医療を提供できるようにと考えています。

伊東 しほり 先生

北海道大学医学部 2017年卒業（内科専攻医2年目）
2020年現在：札幌北榆病院 勤務



■血液内科を志したきっかけ/入局したエピソード

基礎と臨床のつながりが強く、研究レベルのことを患者さんに還元しやすい分野だと思い興味を持っていました。

そんな中、5年次の臨床実習で、当時最新のCAR-T療法で救命し得た再発難治の悪性リンパ腫患者さんを担当させて頂き、とても感動しました。

また、質問すると、血液内科に関連するしなないに関わらず+αの知識も添えて教えて下さり、医局の先生方の優しさ・後輩指導への熱意・知識の幅広さに惚れ、入局を決めました。

■血液内科に入局してよかったこと

北大血液内科はカバーしている医療圏が広く、幅広い分野について網羅的に学べます。それら多くの治療を待っている患者さんに、時には研究レベルの最新の治療を提供することもできます。

また私事ですが夫と離れ離れにならないように人事で配慮して頂けたことはとてもありがたく感じています。

■後輩へのメッセージ

どの科も魅力的なので、たくさん悩んでください。どの科も良いところを宣伝文句に勧誘すると思いますが、命を扱う以上時には厳しい場面もあります。そんな時にここなら頑張れるという仲間や雰囲気を感じたところが良いと思います。やる気のある皆さんのことをお待ちしております。

吉田 匠汰 先生

札幌医科大学医学部 2017年卒業（内科専攻医2年目）
2020年現在：札幌北榆病院 勤務



医師4年目の吉田匠汰です。私は学生時代より悪性腫瘍の診療に興味を抱いていました。その中でも血液疾患を専門的に学び、造血器悪性腫瘍を自ら診断し、治したいという思いから血液内科を志しました。様々な分野で世界をリードする北海道大学血液内科へ入局し、現在、札幌北榆病院で同種移植をはじめ、様々な血液疾患を学んでいます。

稀な疾患も多く、最先端の治療をし、日々新鮮な気持ちで過ごしています。医師3年目は釧路労災病院で内科全般を学び、その経験が現在の診療に生きております。後輩の皆さんへ、内科全般、良性から悪性まで数多くの血液疾患を熱心な指導医のもとで経験することができます。難しい症例もあり悩むこともありますが、日々成長でき、楽しいです。是非、共に学びましょう。

医局長から

■ 大学だと他の病院よりも経験値が劣る？



そんなことはありません。血液内科では手技はもちろん、きちんと考えて治療や検査の判断ができる医師を育てています。また、血液疾患特有の細胞治療（移植やCAR-T治療など）では、全身管理が必要となるため、必然的に全身を診ることができる医師に成長します。

■ 「出る杭」はとりあえず引っ張ります

若い先生の「やる気」を大事にします。学生・研修医の先生の学会発表や論文作成に力を入れています。初めてでも安心して指導を受けてください！これまで、日本内科学会ことはじめ（全国学会）に、当科で指導を受けた医学部6年生が発表し、3名が優秀演題賞を受賞しています（確かな実績あり）。



■ 女性医師が働きやすい環境づくりを目指しています

女性の先生が妊娠された場合、十分な期間の産休・育休を取得してもらっています。また、職場へ復帰された後も、希望あれば平日週4日だけの勤務とし、週に1日はお子さんと触れ合う日を設けることもできます。また、夜間・休日の当番もありませんので安心して働くことができます。

医局長から

■ 血液内科は賢くないと入局できない？

そんな質問をよく受けますが、全くそんなことはありません！不器用でも、一生懸命頑張る方を応援する医局です。当科は、基本的に教えるのが好きな先生が多いのが特徴です。そのためか、学生への系統講義、臨床実習において、いずれも「最優秀科目賞」を受賞！！という快挙も達成しています（2019年）。また、医局の雰囲気も良いためか、学生さんからの人気も高く、医局説明会には毎回多くの方々にご参加いただいています。



（2019年度 医局説明会での集合写真）

■ まとめ

北海道大学血液内科の本当の魅力はまだたくさんありますが、実際に来てみないと分からないことも多いと思います。少しでも興味ある方は、いつでもご連絡ください！

【 連絡先 】 血液内科 医局長 後藤 秀樹
Tel: 011-706-7214
E-mail: info.master@hokudai-hematology.jp